

1919→2019

3・1 朝鮮独立運動 100 周年 キャンペーンへの賛同のお願い

来年 2019 年 3 月 1 日は、日本からの独立を求め朝鮮全土で人びとが立ち上がった 3・1 朝鮮独立運動から 100 周年を迎えます。私たちにとっては歴史を直視しながら日本と朝鮮半島やアジアの人びととの平和な関係をいかに築くのかを問い直す日でもあります。この日に向けて、多くの皆様に共同の取り組みを呼びかけます。

(1) 明治 150 年と 3・1 独立運動 100 年—侵略・植民地支配の歴史とアジアの民族解放運動

今年が明治元年(1868 年)から 150 年目にあたり、安倍政権は内閣官房に「『明治 150 年』関連施策推進室」を設置し、「明治の精神に学び、日本の強みを再認識することは、大変重要」として、日本のアジア侵略と軍国主義の歴史を隠蔽する明治 150 年美化のキャンペーンを、地方自治体も巻き込み推進しようとしています。

明治の日本は、蝦夷地支配、さらには台湾出兵と江華島事件、琉球王国の強制併合を皮切りにアジア侵略と植民地支配の道を突き進みました。1894 年には本格的対外侵略戦争として日清戦争を發動し、台湾を「割譲」させ、さらに日露戦争を経て 1910 年「韓国(強制)併合」に至りました。日清・日露戦争は朝鮮と中国東北地方の支配権等をめぐる争いであり、戦場となった朝鮮では農民軍や抗日義兵などの抵抗闘争が闘われました。

日本国内では、自由民権運動を抑圧し、天皇主権の大日本帝国憲法(1889 年)を制定し、翌年、教育勅語を下付して国民(臣民)に「忠君愛国」「滅私奉公」を求めました。やがて、これらの延長として中国侵略戦争、アジア太平洋戦争へと突入し、1945 年の敗戦へ至ることになります。

その間、第一次世界大戦後の民族自決の流れは日本の植民地支配に対するアジアの人々の民族解放の闘いを促しました。とりわけ 1919 年の朝鮮 3・1 独立運動と中国 5・4 運動は、その規模と広がりにおいてアジアの民族解放運動の画期をなすものでした。私たちは「明治 150 年」と「3・1 朝鮮独立運動 100 年」をこうした歴史視点を踏まえていく必要があると思います。

(2) 日本の敗戦—朝鮮解放・分断 73 年と停戦協定 65 年

中国、朝鮮をはじめとするアジアの人びとの長期にわたる民族解放闘争を背景とした、1945 年の日本帝国主義の敗戦は、民族解放と脱植民地化のうねりをもたらしました。

しかし、朝鮮では日本からの解放の喜びもつかの間米ソによる南北分割占領が行われました。それは当時すでに始まっていた米ソ冷戦の結果であるとともに、日本軍の武装解除などを名目として行われたことに示されているように、日本の朝鮮植民地支配の結果もたらされたものです。

分割占領された朝鮮では、1948 年 4 月南北連席会議が開かれ多数の政党・社会団体代表が集まり、思想・信条を越えて統一国家樹立のための努力が続けられました。しかし、アメリカ主導の国連による南朝鮮だけの単独選挙強行などを経て、南北朝鮮の分断は決定的なものとなりました。そして 1950 年には朝鮮戦争が勃発し、膨大な人的物的犠牲を出しながら 1953 年 7 月 27 日に停戦協定が締結されました。しかし、その後 65 年におよぶ朝鮮戦争の終結はなされず、現在の朝鮮半島の「危機」の根源となっています。

こうした中でも、朝鮮半島の主人公である南北の人々は、6・15 南北共同宣言(2000 年)、10・4 南北首脳宣言(2007 年)など平和と統一へのたゆまぬ努力を重ね、現在 4・27 板門店宣言を経て、新たな展開を進めています。

私たちは、今日においてなお「未完の解放」といわれ、その「完結」をめざす朝鮮半島の人びとの努力に寄り添い、自ら、①歴史を直視し「過去」の清算と植民地主義からの脱却、②朝鮮半島の平和と南北統一にいかにかに寄与するか—の視点から 3・1 朝鮮独立運動 100 周年キャンペーン(講演・シンポ等)を繰り広げます。

多くの皆様に本キャンペーンへの賛同を呼びかけるものです。

- 賛同費 個人(1 口)1000 円/団体(1 口)3000 円
- 郵便振替 00190-9-604110 口座名「3・1 記念事業委員会」

3・1 朝鮮独立運動 100 周年キャンペーンに賛同します【個人・団体】

氏名(団体名)

連絡先

●一言メッセージ

肩書き

電話

氏名(団体名)公表【可・否】